



国際会長 (IP) Ulrik Lauridsen (Denmark)

“Let Your Light Shine”

「輝かそう、あなたの光を」

アジア太平洋地域会長 (AP) Chen Ming Chen (Taiwan)

“Elegantly Change with New Era”

「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

東日本区理事 (RD) 佐藤 重良 (甲府21)

“Let's act now for the future”

「未来に向けて今すぐ行動しよう」

湘南・沖縄部部长 (DG) 小松 仲史 (厚木)

「楽しく・元気よく・前向きに」 副題: 入りたくなるワイズにしよう

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「他者と共に生きる ~ 平和を求めて」

“Live together in harmony ~ for Peace”

会長 古賀 健一郎  
副会長 古田 和彦  
書記 古賀 健一郎  
会計 大高 治  
直前会長 古田 和彦

監事 松島 美一  
ブリテン 伊藤 誠彦  
担当主事 青木 英幸

### <今月の聖句>

押川 幸男

「わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる。  
あなたを見放すことも、見捨てることもない。強く、雄々  
しくあれ。」

(ヨシュア記1章5~6節)

### 今月の聖句について

押川 幸男

私がかつて高校生だった頃の話です。私を含めてほとんどの者が地元の中学校を卒業して入学するのですが、私のクラスに一人だけ東京からの転校生が入ってきました。垢抜けた顔で話し言葉も東京弁いわゆる標準語と呼ばれるものでした。名前が与志也 (よしや) といい、珍

い名前でした。

後でわかったことですが、父親が聖書の登場人物から名付けたとのこと。モーセの後継者ヨシュアのように日本のリーダーとして生きて欲しいとの思いがあったのかもしれませんが。これも後でわかったことですが、彼の父は東京大学の助教授だったようで、私の住む地方の大学の教授として赴任し、それに伴って彼も転校して来たようです。彼は山登りが大好き

で休日に近くの山に登っていて、さらにはクラスの男女全員に声をかけて山岳部を立ち上げました。私も部員の一人として初めて近くの山に登る体験をしました。(私にとってこれが初めて最後の山登りとなりました。) 昨年開催された高校の同窓会では、今も高校時代の男女数人で登山を楽しんでいるようでした。

神さまは、ヨシュアに「強く、雄々しくあれ」と励ましを与えるだけでなく、その根拠として、「わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる」と約束してくださっています。

「あなたと共にいる」。この約束の言葉が目に見える形となったのが、わたしたちのために与えられた御子イエスの誕生の出来事です。「わたしはあなたと共にいる」私たち一人ひとりに与えられた大切な約束となったのです。

今、先行きの見えない不確実で不安定な時代 (VUCA の時代) ですが、そのような時代だからこそ、神さまがあなたと共にいるという約束は、今も私たち一人ひとりに生きる希望を与えているのではないのでしょうか。

### <2023年2月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
12名	メン 8名	67 % (メーキャップ 名を含む)	今月分	
	メネット 0名		切手	0g
	コメント 0名		現金	0円
	ビジター 0名	前月修正 出席率 %	年度累計	
	ゲスト 0名		切手	0g
合計 8名		現金	0円	

## <3月の行事予定>

EF/JEF

日	曜	時間	行事内容	場所
4-5	土		次期会長・部役員研修会	東山荘
7	火	19:00	第97回 Y-Ys 協議会	中央 Y
16	木	10:00	横浜学院専門学校修了式 兼横浜クラブ第一例会	中央 Y
30	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

## < YMCA 会員大会兼2月第1例会報告 >

古田 和彦

日時：2月11日（土）10：00～12：45

開催方法：湘南とつか YMCA と Zoom によるハイブリッド開催

出席者：横浜クラブ：<会場>秋元、大高、古賀、佐竹、田口、古田<Zoom>青木、齋藤

全体：<会場>90名<Zoom>123アカウント

2月11日（土・休）、横浜 YMCA 会員大会ーピースフォーラムーが、湘南とつか YMCA とオンラインでの参加者で開催された。当クラブは毎年、この会を第1例会と位置づけ、大切にしている。世間ではこの日を祝日（建国記念の日）としているが、キリスト者のみならず、ほかの宗教者たちもこの日が戦前の軍国主義体制の基となり、侵略戦争の精神的基盤となっていたことから祝日とは捉えず、平和で共に歩む社会の建設のために学び合う日としている。横浜 YMCA でもこの日が定められた年から毎年、祝日ととらえず、学び・交わりの日としてきた。近年は会員大会との名称の下、維持会員相互の親睦・交流・学びの機会とし、また、YMCA 活動やボランティア活動を知らせる機会にもなっている。昨年はオンラインのみであったが、今年はオンラインに加え、一部の方は湘南とつか YMCA に集い、顔と顔を合わせて開催することができた。

10時開会。総合司会は会員事業委員の鈴木茂さん（横浜つづきワイズ）で、まずは開会礼拝。聖書「ホセア書 10章 12節」が読まれ、古賀健一郎会員事業委員長（当クラブ会長）によって祈りが捧げられ、開会のあいさつを工藤誠一横浜 YMCA 理事長が行った。

続いて、特別講演。講師は『機動戦士ガンダム THE ORIGIN』原作者で総監督である安彦良和氏で、「歴史から学ぶ戦争と平和」～人と人とが、分かり合える世界とは～と題して行われた。安彦氏の講演から筆者が受け取った内容は次の通り。彼は自身の出自を紹介しながら、本業は漫画家であり、漫画を通して歴史に向き合っている。日本のシベリア出兵とロシア革命についても書いたが、戦争ではどちらが正しく、どちらが正しくないと切り切ることができない。また、それぞれ大きな犠牲を払うことになることを伝えたい。日本の古代史については、建国記念の日の元となる神武天皇は架空の人物と言われているが、むしろ、時代は違いますが実在していた人と捉え、その功罪を明らかにし評価していくべきと考えている。また、宗教について、日本全体の歴史、風土から自

身のルーツを考えるには「神道」が、数代の先祖を偲び自分自身を思い返すには「仏教」が、自分の現在を生きる指針としては「キリスト教」がよいのではないかと話された。なお、御自身は北海道・遠軽でキリスト教の家庭に生まれその影響を受けていることも話された。

講演の後、短い時間であったが、質疑応答、分かち合いの時を持ち、次いで、齋藤治子会員事業委員から「ウクライナ支援報告」が行われた。緊急支援募金 475 万円強が YMCA のネットワークでウクライナ YMCA へ、また、難民支援として、日本語クラスに 3 名の聴講生を、4 名の子供たちをスイミングクラスに受け入れていることなどが報告され、加えて、さらなる募金への協力が呼びかけられた。続いて、山手台学童クラブの小学生 2 名から「広島ピースキャンプ報告」が行われた。横浜からは 6 人が参加し、平和祈念館や原爆ドームを見学、平和について感じ、考えたとの報告があった。さらに、岸宗克明会員事業委員から「YMCA 維持会員のご案内」として、維持会費の使途の説明とアピールがあった。最後に、佐竹横浜 YMCA 総主事の閉会の挨拶があり予定を少し超えて終了した。良い学びの時を持つことができ感謝でした。

## 「東西日本区交流会報告」

大高 治

日時：2023年2月4日（土）～5日（日）

場所：神戸市 ANA クラウンプラザホテル神戸

参加者：434名（東：130名、西：304名）

横浜；古賀、大高

### ハイライト

日本区が東西に分かれてから 25 年、5 年ぶり 3 回目の交流会でした。多くのプログラムが用意され、「語ろうワイズの未来！ともに手をとり次の 100 年へ」のテーマに相応しく、熱心な意見交換会、討論、奉仕事業の発表、ラオスへのホテル学校設立の紹介、6 クラブ及び 3 クラブによる DBC 締結式が行われ、クラブの発展と交流の機会を増やそうとする意欲を感じました。

### 奉仕活動団体フォーラム

交流会の開会式に先立ち、ライオンズクラブ、国際ロータリークラブ、国際キワニスとワイズメンズクラブ 4 団体の代表者によるフォーラムは、今回の交流会の一大ハイライトと思います。各クラブの活動の概要と共に、課題も発表されました。共通の課題は会員の増強でした。入会を勧めるには特定の部会活動や、専門性のある活動を増やした方が、若手にアピールするのではないだろうかという提言がありました。筆者が別途所属するシニアクラブや会社の OB 会でも特定の部会活動の方が会員増強の効果がある時期に来ているように感じています。また、奉仕活動を楽しみ、楽しみながらの奉仕活動をすることが重要であるとも述べられ、他の 3 クラブとの共同活動、地域行政との交流も大切であることも語られました。

### 開会式

田上西日本区理事の開会点鐘で始まり、西日本区理事、東日本区理事の挨拶、田口 YMCA 同盟総主事の来賓祝辞、Ming アジア太平洋地区会長のビデオメッセージと続きました。横浜クラブのメンバーでもある田口総主事はウクライナからの

避難者 700 名中 YMCA は 170 名の支援に取り組んでおり、今後も増えるであろうと協力を呼び掛けられました。

### ラオスに YMCA 国際ホテル学校を

京都パレスクラブの大野ワイズ（在京都ラオス人民民主主義共和国名誉領事）のお骨折りで、YMCA のないラオスに YMCA を設立しようという活動の中で、海のないラオスに観光立国化を勧めたところから、YMCA ホテル学校設立に発展しているというアピールがありました。3 年前、横浜戸塚クラブのブリテンでラオス／京都に関わる大野ワイズの活躍（象／京都市バス）を知り、就学年齢前の少数民族にラオスの標準語を教える学校設立の為、ラオスに赴任した筆者の姪を紹介すべく戸塚クラブの加藤ワイズの紹介で交信を始め、一時帰国時に面談を試みましたが、コロナの為、実現しませんでした。姪はビエンチャン市内を走る京都の市バスの不思議と大野さんの働きが繋が



大野ワイズを囲んで

り、感激していたのでした。今回初めて大野ワイズとお会い出来、古賀会長にも紹介出来ました。大野ワイズからは是非例会によんで欲しいとの要望がありました。

### DBC 締結式と IBC 締結の進行

クラブ名に西が付く東京西、京都ウエスト、大阪西、神戸西、熊本にしに千葉ウエストが加わり、6 角（ヘキサゴン）の締結式が行われました。また日本でのワイズ第 1 号の大阪クラブからはワイズ発祥の地、米国トレドのクラブとの IBC 締結交渉が進んでおり、来る 3 月台北で開催される 100 周年記念大会での調印を目指している旨の報告と共に、各国の第 1 号クラブとの IBC 締結の意向が述べられました。

### 懇親会での DBC 交流

434 名の懇親会は盛大でした。参加者 1～2 名のクラブもありましたが、DBC 間の交流は盛んであったように見受けられました。今回当クラブの兄弟、大阪長野クラブからの参加者はおりませんでした。今後はこのような機会には相互に呼びかけ、同じテーブルで親交を深められるようにしたいと思いました。

### <ぶら神戸>の気配りに感謝

2 日目、ANA ホテルや神戸 YMCA では早天礼拝を含む大切なプログラムが進行していましたが、筆者は「旧居留地めぐり」に参加しました。計 4 つの<ぶら神戸>が用意されており、いずれも歴史ある神戸ならではの<ぶら神戸>と思えました。旧居留地めぐりでは専門のガイドさんの説明も良く、下見をされた神戸のクラブの方々のお骨折りで、旧居留地の見どころを効率良く案内して頂きました。大地震で壊れた由緒ある建物も見事に修復されており、「外側は昔の状態に復元されたが、中は近代化している」と感嘆の声を上げた歴史ある都市からのワイズもありました。

横浜も神戸もビルにナンバーが付いております。横浜のそれは開港以降建てた順番です。神戸のそれは番地とのことです。時が経つにつれ横浜のビルのナンバーは消えてきました。神戸は消えません。街の保存の仕方、少々異なるようです。

## 『近況一鎮魂の祈り』

古賀 健一郎



一年半前大病を患ってから奇跡的に健康回復の感謝と報告を兼ねて、昨年暮れ、数年ぶりに姉弟と一緒に、長崎にある両親の墓参りに帰郷した。

お墓は長崎駅近くの小高い高台にあり、父の希望で、父が造船技師として勤務した三菱重工長崎造船所を眺める場所にある。また造船所が位置する長崎港は、“鶴の港”と呼ばれており、谷間に深く入り込んでいる海の姿が、羽を広げた鶴のようであり、美しい眺望も見下ろせる場所にある。

お墓参りを終えた後に、よく立ち寄る場所が、同じ長崎駅近くにある「日本二十六聖人殉教地・西坂の丘」である。長崎はキリスト教弾圧の歴史を持つ街である。日本史上の汚点のひとつに豊臣秀吉から徳川家康の時代にかけて行われたキリスト教の弾圧がある。そして長崎はその中心舞台であり最も激しく迫害が行われた地であった。

豊臣秀吉は 1587 年にバテレン追放令を出したが、宣教師による布教を禁止したもので、キリスト教を信じることは当初は許されていた。1596 年スペイン船サン・フェリペ号が遭難して土佐に漂着し、その取調べの中で「スペインは領土征服の第一歩として宣教師を送り込む」（真実は定かでないが）ということが秀吉に伝わり、秀吉はキリスト教を弾圧する方針に転換した。京都で積極的に布教活動を行っていたスペイン系修道会『フランシスコ会』を中心に、外国人宣教師（司祭・修道士）6 名、日本人修道士・信者 18 名の合計 24 名が捕らえられた。彼らは全国のキリシタンに対する見せしめとして「長崎へ連行し、処刑せよ」との命令を受けて、1597 年 1 月 10 日に大坂を発ち、大坂・京都で引き回しの上、左の耳たぶを切り落とされ、厳冬期に歩いて長崎へ向かった。24 人は約 1 カ月にわたって約 800km の道のりを歩いた。道中、2 人が尊い犠牲になることを望み、これに加わった。一行は同年 1597 年 2 月 5 日の午前 10 時頃西坂の丘で、十字架に磔にされ、槍で両脇を刺されて殉教した。

この「長崎二十六殉教者記念像」の制作者が、戦後日本を代表する彫刻家、「舟越 保武」である。精力的に作品を生み出していた 75 歳の時、脳梗塞で倒れ、右半身の自由と視覚の一部を失ってしまった。両腕と力が必要な石や木材を用いた彫刻はできなくなったが、それでも、舟越は彫刻への情熱を失わず、弱い力しかなくても取り組める粘土を用いるブロンズ彫刻に注力した。新たに左手だけで制作した作品はこれまでとは異なる粗削りの造形の中に、舟越の彫刻への深い気迫が感じられる。

この高村光太郎賞を受賞した「長崎二十六殉教者記念像」は 50 歳の時の作品だが、現地に赴いて、その記念像を見ると、そのどこにも「作者名」つまり「舟越保武」の名前が記されていない。これは舟越さんからの要望だそうで、彼は本当に純



「長崎二十六殉教者記念像」  
(1962 年 船越保武 作)

この高村光太郎賞を受賞した「長崎二十六殉教者記念像」は 50 歳の時の作品だが、現地に赴いて、その記念像を見ると、そのどこにも「作者名」つまり「舟越保武」の名前が記されていない。これは舟越さんからの要望だそうで、彼は本当に純

粹な気持ちで、この二十六体の殉教者への祈りを込めて、「長崎二十六殉教者記念像」の制作に取り組まれたそうだ。26人は腰に布を巻いただけの姿で殉教したが、意図的に着衣の姿となってる。苦難の旅の結果の蔽衣(へいゐ)の破れてぼろぼろになった服の代わりに、信仰の晴れ着を着せた。キリスト教の神に捧げた、つつましい、つつましいゆえに大きな作品である。

原爆被爆地の長崎で生まれ育ち、通った高校は爆心地の近くにあった。原爆投下時のあの日、焼けただれた被爆者が、「水を！」とうめき叫びながら浦上川に集まり亡くなっていった、その浦上川をいつも見つめながら、私は高校生活を過ごした。さらにここで記している「日本二十六聖人殉教地・西坂の丘」…。

我が故郷の、悲しみに満ちた苦難の歴史を通して捧げられる鎮魂の祈りに自らも積極的に参与し、歴史の重みをはっきりと心に留めていきたい。そして…。

未来を担う子どもたちに平和な世界を残すことが大人の責任だと痛感し、その実現に向け、微力ながら努力していきたい。

## 第二例会報告

伊藤 誠彦

日時 ; 2月21日(火) 17:30~18:15 (Zoom)

出席者 ; 青木、伊藤、大高、古賀、古田

出席者の都合に合わせて変則日程で開催。

### 1. 行事予定の確認

資料に基づき1月~3月の行事予定の確認

### 2. 協議・報告事項

#### (1) 横浜クラブ3月例会

横浜学院専門学校日本語科修了式が3月16日10:00よりチャペルにて執り行われる。修了式への出席が3月第一例会出席を兼ねる。

#### (2) 4月例会

4月13日鈴木茂ワイズによる卓話「ワイズと横浜YMCA」(仮題)を予定。古賀会長よりコロナ禍で延び延びになっていた青木ワイズと秋元ワイズの入会式を行いたいとの話があった。青木ワイズより、健康上の理由により4月からは後任の担当主事と交代する予定である旨の発言があった。

#### (3) 5月例会

詳細未定。

### 3. 次期クラブ役員

古田次期会長より、次期クラブ役員について次の通り報告があった。

会長 古田 和彦 副会長 秋元 美晴 会計 大高 治  
書記 古賀 健一郎 ブリテン 伊藤 誠彦  
監事 松島 美一 (予定)

### 4. 熊本スピリットクラブとのDBC締結について

コロナ禍のため締結を延び延びにしていた熊本スピリットクラブとのDBC締結は、熊本側の諸般の事情により一旦白紙に戻すことになったと古賀会長、古田次期会長より説明があった。



担当主事 青木 英幸

2月24日(金)に本校日本語学科の「日本語発表会」を実施しました。昨年に引き続き事前に7クラス分の動画撮影を行い、当日オンラインにて配信し、教室にて同時視聴を行いました。

司会進行を学生が担いました。各クラスで日頃学んでいる日本語を用いて、「私の国の紹介」、「国と料理と歌」と出身国を紹介したものや、アニメをテーマとしたドラマの「ドラえもん」や「千と千尋の神隠し」、スライドドラマの「かぬむかし」、オリジナルドラマの「イカゲーム」や「主人公の奇異な冒険」と、それぞれ趣向を凝らした内容を発表し、視聴中は終始笑いが絶えませんでした。

最後に2月1日に一般社団法人神奈川県専修学校各種学校協会横浜支部主催による「第34回外国人留学生による日本語スピーチコンテスト」に出場した、ムトゥヤナカ サクラゲ ピウミ マデュシカ サンダマリさん(スリランカ)が



「日本の丁寧な鉄道サービス」、レ ホアン バオ チャンさん(ベトナム)が「白紙」というテーマを模範スピーチとして披露し会を閉じました。

### 3月例会プログラム

日時 : 3月16日(木) 10:00~11:30

場所 : 中央YMCAチャペル+Zoom

「横浜YMCA学院専門学校 日本語学科卒業・修了式」

(横浜クラブ第一例会を兼ね参加)

Happy Birthday 秋元美晴、遠藤三起子、古賀智子、佐竹順子、古田和彦

例会報告 : 古賀ワイズ

### 4月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
13	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
27	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 青木英幸にご連絡下さい。

メール [aoki\\_hideyuki@yokohamaymca.org](mailto:aoki_hideyuki@yokohamaymca.org)

電話 045-661-0080